

第 2 学年国語科学習指導案

児童 2年1組男19名女14名計33名
指導者 中村 幸子

相手の話に関心をもちながら、話題に沿って聞き合う学習活動の工夫

1 単元名 ようすを考えて読もう (学習材名「お手紙」他)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は「スイミー」や「黄色いバケツ」において、時間や事柄の順序に気をつけて話の大体をとらえ、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読む学習をしてきた。児童は、登場人物の「したこと」や「言ったこと」に着目し、書き抜いたり自分の考えを書き込んだりして、登場人物の気持ちや場面の様子をとらえることができるようになってきている。

「読むこと」の学習に対話を位置付けるということに関しては、観察しているたんぼぼの知恵のすばらしさや調べた海の生き物について聞き合う学習をしている。児童は、自分の考えや思いを友だちが聞いてくれることに喜びを感じ、対話を楽しんでいる。しかし、話題に対する自分の思いや考えを十分にもつことが足りず、対話が途切れてしまったり、話題に沿って話をする力が十分とは言えなかったりする児童もいる。

本単元においては、登場人物の「したこと」と「言ったこと」を手がかりにして登場人物の気持ちを想像する力、そして、登場人物の行動と自分の経験とを結びつけながら考えたことを話したり聞いたりする力をつけていくことが大切であると考ええる。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」「互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと」である。この力を培うために、「登場人物の『したこと』『言ったこと』」に着目し、気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと「心に残った場面を自分が経験して思ったことや考えたことと結び付けて聞き合うこと」が指導の中心である。

本学習材「二人シリーズ」は、ちょっぴりわがままで、自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんと二人の友達の話である。ユーモアがあり、互いに相手を思う優しさや友達と一緒にいることの嬉しさにあふれているこれらのお話は、児童にとって魅力的であり、読書の楽しさを十分に味わうことができるものである。

この学習材を通して、児童は、登場人物の行動に着目し、大事な言葉や文を書き抜いたり自分の考えを書き込んだりして、想像を広げて読む力を高めていくことができると考える。そして、自分の思いを登場人物に重ね合わせて考えながら「友達っていいな」「こんな友達が欲しいな」という温かい気持ちをもって友達の話の聞いたり、「心にのこったこと」という話題に沿って聞き合う力を高めたりすることができるであろう。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、児童が興味をもって主体的に学習に向かうことができるよう、題名や手紙をもらった経験について話し合ったり挿し絵を見比べたりするなどの導入の工夫を図りたい。また、お話を読んで「はてな」と思ったこと、みんなで考えたいことを課題として学習を進めていくという見通しをもたせる。

ふかめる段階では、「お手紙」の学習で文学的な文章を読み取る力を育てたい。そのために、物語の展開に即して二人の登場人物の行動に着目し、気持ちの変容を想像させる一人学びを取り入れる。その際、がまくんとかえるくんの「したこと」「言ったこと」の中でも特に、「大急ぎで」「とび出しました」などの修飾語や何度も繰り返される文に着目させたい。そして、一人学びしたことをもとに、全体で課題解決を図る。「様子を考えると読む」ことが、がまくんとかえるくんが互いに思いやっているという関係に気づくことができることを理解させたい。「お手紙」の学習の後には、好きな場面やお気に入りの文を選んで「絵手紙」に表し、「シリーズ」を読みたいという意欲や読書の楽しさへつなげたい。

まとめる段階では、補助学習材を読み、登場人物の「したこと」「言ったこと」の中で心に残ったことについて対話する。それは、「お手紙」で学んだ「友情」「友達のよさ」という内容の価値を、自分に引き寄せて考えさせたいからである。対話では、学んだ「読む力」を生かし、心に残った登場人物の「行動」とその「わけ」を聞き合わせる。物語の叙述に沿って話す中に「自分だったら」とか「似たようなこと」など、自分の経験を結びつけて対話することによって、児童は自然と「友達のよさ」に気づき、そのことを友達と話し合うことの心地よさを味わうことができるだろう。最後に、お話を読んで心に残ったことや考えたことを登場人物に宛てた手紙に書く活動を位置付け、単元のまとめとする。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

・二人の友情のお話を楽しんで読み、進んで話したり、相手の話を受け止めて聞いたりしようとする。

(2) 話すこと・聞くこと

・話題に沿って聞き合うことができる。

(3) 読むこと

・場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

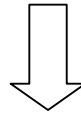
・文の中における主語と述語との関係に注意することができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
①登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読み、お話を楽しんでいる。 ②友達の話に関心をもって聞いている。	①友達と心に残ったこととそのわけについて聞き合っている。	①場面の様子について、登場人物の行動に着目し、想像を広げながら読んでいく。	①文中における主語と述語との関係に注意している。

5 学習指導計画（14時間）

【関連する前の単元】 「黄色いバケツ」
○場面の様子や登場人物の気持ちを想像してお話を楽しむこと。



【関連する対話の指導】
○友達の話の大事なことを正確に聞き取ること。

階	学習課題（内容）	学習活動と時間	評価規準(方法)
みとおす	○「お手紙」を読んで、学習計画を立てよう。	・題名から気づいたことや手紙をもらった経験を話し合い、単元の見通しをもつ。(1) ・粗筋をつかみ、感想や課題をもつ。(1)	アー①挿し絵を見比べ、気づいたことや手紙をもらった経験を発表している。(ノート、発言)
ふかめる	○「お手紙」は、どんな話だろう。	・がまくんとかえるくんの「したこと」「言ったこと」に着目し、中心人物「がまくん」の気持ちの変容を一人学びでとらえる。(1)	ウー①登場人物の「したこと」や「言ったこと」を書き抜き想像した気持ちを書いている。(ワークシート)
	○「ふたりとも」かなしい気分で、玄関に腰を下ろしていたのはなぜだろう。	・一人学びをもとに、全体で課題を解決する。 ・「ふたりとも」悲しい気分になったわけを読み取る。(1)	エー①文中における主語と述語に気をつけて読み、「だれが・どうした」話なのかを理解して読んでいる。(音読、発言、ノート)
	○がまくんは、なぜ「いいお手紙だ」と言ったのだろう。	・かえるくんが書いたお手紙の内容を読み取る。(1)	ウー①登場人物の「したこと」「言ったこと」を手がかりに、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取っている。(発言、ノート)
	○ふたりとも「幸せな気持ち」になったのはなぜだろう。	・がまくんの気持ちに変容したわけと、「ふたりとも」幸せな気持ちになったのはなぜかを読み取る。(1)	アー①自分の好きな場面を文と絵でかいている。(絵手紙)
	○自分の「好きな場面」を絵手紙にかこう。	・「好きな場面」「お気に入りの一文」を絵手紙にかく。(1)	イー①話題に沿って聞き合っている。(対話、感想)
まとめる	○「なくしたボタン」「おちば」「ひとりきり」を読んで楽しもう。	・3つの話を登場人物の「したこと」「言ったこと」に着目し、登場人物の気持ちを想像する。 ・「好きな場面」を見つけながら読む。(3)	ウー①登場人物の「したこと」や「言ったこと」を書き抜き、想像した気持ちを書いている。(ワークシート)
	○3つのお話を読んで、「心に残ったこと」について友達と聞き合おう。	・3つの話の中から、心に残ったことを絵手紙にかき、友達に話す準備をする。(2) ・登場人物の「したこと」「言ったこと」に着目し、「心に残ったこと」を対話する。(1)…本時	イー①話題に沿って聞き合っている。(対話、発言) アー②友達の話に関心をもって聞いている。(対話、ノート)
	○登場人物に手紙を書こう。	・「二人シリーズ」を読んで心に残ったことや考えたことについて、登場人物に宛てた手紙を書く。(1)	エー①4つの話を読んで心に残ったことや考えたことを主語と述語に気をつけて書いている。(手紙)



＜生かす単元＞「スーホの白い馬」
・出来事の順序に気をつけたり場面の様子を想像したりしながら読み、また、声に出して読んで、物語を楽しむこと。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・ 友達の話に関心をもって聞こうする。〔対話の情意的要素〕
- ・ 「心に残ったこと」とそのわけについて、質問をしたり感想を話したりしながら聞き合うことができる。
〔「話すこと・聞くこと」の能力〕

(2) 展開

段階	学習活動	時間	◇ 学習内容	教師の関わり方 ☆評価（方法）
みとおす	1 本時の学習課題を確認する。 心に残ったことについて、友達と聞き合おう。	2	・ 学習課題を確認する。	
ふかめる	2 心に残ったことを聞き合う。 (1) 対話の仕方を知る。	10	◇ 対話の仕方がわかること。 ①一番好きなお話の題名を言う。 ②がまくんやかえるくんの「したこと」や「言ったこと」の中で「心に残ったこと」と「わけ」を話す。 →聞いたことを確かめ、質問をしたり、感想を話したりする。	・ 登場人物の言動を自分のこととして考えさせるようにしたい。そのため児童が自分の経験や思いをお話の叙述と結びつけて考えることができるように、「もし私だったら」や「私にも似たようなことがあって」など、具体的な言葉を示すようにする。
	(2) 1回目の対話をする。	5	◇心に残ったことについて聞き合うこと。 A：私は、「ひとりきり」が好きです。私が心に残ったことは、「がまくんが走って帰った」ことです。わけは、かえるくんのために早くサンドイッチをつくってあげようという気持ちが伝わってくるからです。 B：Aさんが心に残った場面は、がまくんが「走って帰った」ところなのですね。Aさんは、かえるくんのために走って帰ったがまくんをどう思いますか。 A：もし私だったら、「ひとりきりで寂しそうだな」と心配をするかもしれませんが、がまくんのように友達のために走って帰るということはできないと思ったので、がまくんは友達思いなのだなあと感心しました。	☆友達の話に関心をもって聞いている。（対話） ☆話題に沿って簡単な応答をしながら聞き合っている。（対話、発言） 〔努力を要する児童への支援〕 登場人物に対する気持ちや、「もし〇〇さんだったらどうするか」という質問の観点を確かめる。
	(3) 相手を替えて2回目の対話をする。	5		
	3 対話したことを出し合い、全体で話し合う。	15	◇登場人物の言動から、「友達のよさ」を考えること。 ・「お手紙」では、がまくんがかえるくんにしてもらっていたけど、「ひとりきり」では、がまくんがかえるくんにサンドイッチを作ってあげて、お互いに思ったり思われたりしているところがいいなあと思いました。 ・「おちば」でも友達を喜ばせたいと落ち葉掃きをする二人はいい友達だなって思いました。 ・4つのお話を読んでどれも互いに助け合ったり思いやったりしているところが好きです。	・ がまくんやかえるくんの「したこと」「言ったこと」に着目して読むことが、お話の「おもしろさ」をとらえる一つの技能であることをおさえ、3つのお話のよさを全体で共有したい。さらに、がまくんとかえるくんの言動が二人のよい関係をつくっていることに気づかせたい。
まとめる	4 学習の振り返りをする。	8	・ 単元を振り返り学習のまとめを書く。	・ 友達と「心に残ったこと」について聞き合ったことや、対話をして思ったことを書き、まとめとする。